

1. 令和7年度事業計画の件

本事業計画は定款第38条により令和6年度第6回理事会で承認しました。内閣府に令和7年3月31日に届け出たものです。届け出後に確定した日程を加筆してあります。

公益社団法人日本栄養・食糧学会

令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）事業計画

<基本方針>

公益社団法人に相応しい、社会に貢献する学術法人として、理事会が中心となって、目的とする公益事業推進のための体制を維持・発展させ、一層の改革を進める。さらなる公益事業の推進と財政基盤の安定化のため、会員の増加を目指した活動と並行して、税法上の特定公益増進法人であることを生かし、各事業における収入源を確保していく。特に令和4年度は第22回国際栄養学会議のために積み立ててきた特定資産を取崩し、計画的に自己資金を消費して、第22回国際栄養学会議を東京国際フォーラムで開催し、令和5年度に決算を終えて開催報告書を作成した。このことによる学会の資金的な懸念はなく、今後も本法人の安定的運営を継続すべく財政安定化をさらに目指していく計画である。令和6年度からは、新たに6年間の特定費用準備資金積立（国際活動特定資産）を設け、アジア栄養学連合、アジア近隣諸国の栄養学会との交流促進、アジア栄養学会議や国際栄養学会議等への積極的な参加を推し進めている。特にパリで令和7年8月に開催される第23回国際栄養学会議に日本栄養・食糧学会として2つのシンポジウムを主催する計画を立て、準備を進めている。

また、政府の公益法人改革により、令和7年4月から法令が変わるため、その対応、特に経理処理の変更に対応すべく、数種の経理ソフトを検討し、導入を予定している。

公益目的事業の展開のうち、まず栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1事業）として、以下を行う。

・第79回年次大会を名古屋市において開催する。これまでの年次大会と同様に特別講演、シンポジウム、国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウム、市民公開シンポジウム等が企画されている。特に今回は、昨年、健康食品で健康被害がでたことから、緊急シンポジウム「健康食品・機能性食品の安全性担保に向けて」を企画している。本部企画シンポジウムでは、昨年学会内に設置したダイバーシティ推進委員会、並びに昨年11月1日付けで正会員に迎えられた男女共同参画学協会連絡会の関連から、シンポジウム「自然科学系分野のジェンダーダイバーシティの現状と課題を知る」を予定している。また、徳島大学大学院に設けられた宇宙栄養学コースの学生が初めて11名修了したことから、『「宇宙食健康認定制度」キックオフシンポジウム「宇宙×食」』として予定している。更に、将来構想検討委員会が中心となり、「若手研究者が挑戦する栄養食糧学研究の新しい世界」を予定している。また一般講演は口頭発表の形式で実施し、別途ポスター発表による審査も行い学生優秀発表賞を授与する制度を継続する。一般講演の中から先進的・画期的な優れた講演を選出し、大会前にプレス発表を行っており、第74回大会からプレス発表された講演についてトピックス賞を授与しており、これを継続する。また、第69回大会より授与している技術賞を継続し、産官学連携の一層の充実を目指し、公益法人として関連する産業の発展に寄与することを目指した活動を継続する。

・各支部においては、支部大会およびシンポジウム等を、各支部により企画されたテーマのもと関連学会とも連携を図りつつ開催する。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2事業）の展開については、以下を行う。これらの事業展開は、学会内の各委員会により効率よく進めるものとする。

・公益目的事業を維持しつつ、時代の変化に対応していくために、理事会の活動を強化し、当学会の今後の進路を明確にするため、将来構想検討委員会が中心となって、令和6年度に定めた5つの推進すべき事項について検討して、学会活動に反映させる。①学会員数の増加については、令和6年度と同様に栄養・食糧学領域以外の学問領域との連携を深め、あらたに異なる学問領域に所属する研究者を本学会の会員になってもらうよう働きかける。②若手会員の情報発信の場の構築は、学会活動強化委員会や学会誌編集委員会と連携して若手会員の情報発信事業を推進するとともに、若手活動企画推進委員会を発足させて企画などを委嘱することで、柔軟な発想の下で積極的な学会活動を促す。③国際交流の強化は、国際交流委員会を中心にICN2025（パリ）で2つのシンポジウムを開催予定であり、従来からの韓国食品栄養科学会（KFN）ならびに台湾栄養学会（NST）との連携シンポジウムを継続する。④宇宙食健康認定制度の推進については、宇宙食健康認定士・宇宙食健康指導士認定委員会を中心に徳島大学との協定を結び、内閣府の承認・指導の下で具体的な活動を始める。⑤ダイバーシティ推進については、ダイバーシティ推進委員会と連携して、男女別の会員数や役員数の調査を終えたため、今後は女性役員数の増加に向けた方針を定める。

・第22回国際栄養学会議開催後の本学会が行うべき活動内容に関して、栄養科学並びに食糧科学のさらなる発展に寄与すべく、将来構想検討委員会を中心に検討を進める。

・近年宇宙への関心が高まり、各国の宇宙計画が企画され、宇宙空間での健康・栄養などの研究開発がより求められているため、宇宙食健康認定制度を設け、専門人材の育成や資格制度を設けることを計画しており、収益事業（収1事業）として対応すべく、内閣府とも協議を進めていく。

・学会誌、英文誌の刊行を通して人々の健康・福祉の向上に寄与する。日本栄養・食糧学会誌の定期的な刊行継続においては、編集委員会・用語委員会と連携し、学会誌編集業務のさらなる効率化を図る。日本ビタミン学会と合同編集の英文誌 Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) においては、日本ビタミン学会との協議に基づき平成30年2月から実施したペーパーレス化を定着させ、会員にとってより投稿しやすく、かつ世界の栄養学術誌としての地位を高め、より質の高い英文誌として認知されるよう活動を継続する。令和2年末からは、日本ビタミン学会の他、FANS (Federation of Asian Nutrition Societies) も参加することになり、国際化が更に図られることとなった。

・当学会が所属している日本栄養学学術連合（令和7年度から栄養関連17学会で構成）では、2021年12月7日～8日に開催された「東京栄養サミット2021」に参加し、コミットメントを表明した。令和4年度からコミットメントに対応する年間実績の報告が求められ、ワーキンググループを作り、継続的に対応する。

・利益相反（COI）委員会および理事会での検討を基に、本格運用を進めているCOI制度に関して、申告すべきCOI状態のある会員の利便性を向上させる観点からの改革を進める等、本学会にふさわしい制度を目指す。合わせて倫理規定の見直し等を行い、COI制度との整合性を検討していく。

・新型コロナウイルス感染症の流行拡大時に、各種会議はオンラインによるWeb会議となり、そのためのWeb会議システムを支部に導入した。事務局では、データ共有・保存システムを刷新し、個人情報などを的確に保護・管理する体制にした。令和7年度は、

令和5年度に開始されたインボイス制度や電子帳簿保存法、或いは令和7年4月1日からの公益法人改革に伴う会計処理方法の変更に伴い、これらに適合する新しい会計処理システムの導入を検討する。

以上の基本方針をもとに、下記事項を推進する。

I 学会運営および会員サービスの更なる基盤強化

- 1) 公益法人認定法に基づく公益事業推進体制の充実
- 2) 理事会のガバナンスによる学会運営の着実な実施とコンプライアンスの強化
- 3) 会員増を目指した活動の継続
- 4) 寄附金の積極的受け入れ
- 5) 外部団体（日本学術会議、日本医学会連合、日本栄養学学術連合、等）への貢献・協力
- 6) 日本栄養・食糧学会技術賞等による産官学連携の一層の強化
- 7) 栄養・食糧学に関する研究開発の国際協力を発展させ、国際人材の育成に努める
- 8) 利益相反（COI）指針・細則等によるCOI管理の実施
- 9) 年次大会における学生優秀発表賞の継続実施と、栄養・食糧学基金や若手研究助成を中心とする若手会員の支援強化
- 10) 年次大会におけるトピックス賞継続実施
- 11) 年次大会における国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウムの継続的開催
- 12) 大会講演要旨集のWeb公開の定着とデータの蓄積
- 13) 食と健康の未来に向けた議論の開始と社会への発信準備

II 各種事業活動の推進

<栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1）>

1) 大会事業の推進

(1) 第79回日本栄養・食糧学会年次大会の開催

会頭 小田 裕昭 名古屋大学大学院（名古屋文理大学）

期日 令和7年5月23日（金）～25日（日）

会場 名古屋大学東山キャンパス（名古屋市）

- ・特別講演
- ・教育講演
- ・国際シンポジウム
- ・医学系学会との合同シンポジウム
- ・シンポジウム
- ・研究発表
- ・市民公開シンポジウム
- ・関連学会集会

(2) 支部事業（発表・講演会・シンポジウム等）の推進

・北海道支部

i) 第55回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

期日 令和7年9月～12月頃

会場 北海道札幌市もしくは帯広市（予定）

ii) 支部シンポジウム

期日 令和7年9月～12月頃

会場 北海道札幌市もしくは帯広市（予定）

・東北支部

i) 第59回日本栄養・食糧学会東北支部大会

期日 令和7年秋頃

会場 宮城県仙台市（予定）

内容 支部参加会、支部報告会、一般講演、情報交換会

ii) 公開シンポジウム

期日 令和7年秋頃

会場 宮城県仙台市（予定）

・関東支部

i) 第115回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

期日 令和7年10月

会場 東京大学

テーマ「食と栄養の脳科学（仮）」

同時に参加会開催

ii) 第28回健康栄養シンポジウム

期日 令和7年12月～令和8年1月

会場 未定

協賛 日清オイリオ株式会社

iii) 第 116 回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

期日 令和 8 年 2 月～3 月頃

会場 大妻女子大学

日本食物繊維学会との共催で食物繊維に関する国際シンポジウムを企画中

・中部支部

i) 第 84 回日本栄養・食糧学会中部支部大会

期日 令和 7 年 11 月 29 日 (土) (予定)

会場 常葉大学草薙キャンパス (静岡市) (予定)

・近畿支部

i) 第 64 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

期日 令和 7 年 11 月 8 日 (土) (予定)

会場 帝塚山学院大学 (大阪)

ii) 若手活動支援事業 (近畿支部若手奨励賞)

期日 令和 7 年 11 月 8 日 (土) (予定)

会場 帝塚山学院大学 (大阪)

iii) 若手活動支援事業 (第 16 回栄養学を志す若手のためのフォーラム)

期日 令和 7 年 11 月 8 日 (土) (予定)

会場 オンライン開催 (予定)

日本栄養改善学会近畿支部共催

・中国・四国支部

i) 第 58 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会

期日 令和 7 年 11 月 8 日 (土)・9 日 (日)

会場 高知県立大学永国寺キャンパス (高知市)

・九州・沖縄支部

i) 令和 7 年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会

期日 令和 7 年 11 月 8 日 (土)・9 日 (日)

会場 沖縄大学 (那覇市)

特別講演・一般講演・栄養支部発表賞審査

2) 表彰事業の推進

(1) 令和 7 年度表彰授与式開催 (令和 7 年度定時社員総会時)

功労賞 3 件、学会賞 3 件、奨励賞 3 件、技術賞 1 件

学生優秀発表賞 10 件程度 (令和 7 年度学術大会時)

トピックス賞 21 件 (令和 7 年度学術大会時)

(2) 令和 8 年度対象各賞選考の実施

各種授賞等選考委員会開催 (令和 7 年 12 月)

功労賞 3 件以内、学会賞 3 件以内、奨励賞 3 件以内、技術賞 2 件以内の推薦

(3) 外部団体への授賞推薦の推進

年間スケジュールの公開と更新の実施

3) 助成・助成推薦事業の推進

(1) 支部大会事業活動の支援

(2) 栄養・食糧学基金交付対象の選考の実施

(3) 外部団体への助成推薦の推進

学会誌等へ掲載し、その公示をタイムリーに行う。

4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

(1) 健康・食品保健表示に関する検討

栄養成分表示および保健機能食品の現状・動向を調査するとともに、普及啓発を行う。日本人の食事摂取基準の普及啓発を行う。特に、第 79 回年次大会において「日本の栄養課題に沿った栄養プロフィールモデルの開発とその課題」(本部企画)に関するシンポジウムを開催する。

(2) 栄養・食糧学用語に関する検討

昨年度同様学術用語の管理を行う。栄養・食糧学用語辞典(第 2 版)における見出し語ならびに説明文の検証を引き続き行う。用語の修正・新規収録を検討し、ホームページへの掲載を目指す。

5) 国際交流事業の推進

(1) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS、アジア栄養学会連合) 関係

FANS と連携し、その事業を支援する。

- (2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS、国際栄養科学連合) 関係
IUNS と連携し、その事業を支援する。
- (3) International Union of Food Science and Technology (IUFoST、国際食品科学工学連盟) 関係
IUFoST Japan と連携し、その事業を支援する。
- (4) 海外関連学会との連携
第 79 回年次大会での国際シンポジウムとして、Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN、韓国食品栄養科学会) と Nutrition Society of Taiwan (NST、台湾栄養学会) の共催シンポジウムを実施する。

6) 倫理審査事業の推進

- (1) 倫理審査ならびにそれに関するアドバイスの実施
適宜申請された案件または相談について、審査ならびに関連したアドバイスを実施する。
- (2) 倫理審査規程の随時見直し
わが国においてすべての、ヒト対象の生命科学・医学系研究が遵守しなければならない、厚労省、文科省、経産省合同の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」ならびにその運用に関する「ガイダンス」の見直しや解釈変更をモニターし、その動向や変化を必要に応じ本学会規程に反映させる。
- (3) 年次集会発表における人対象の研究に関する倫理審査について
日本医学会連合研究倫理委員会の「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」に基づき、他学会の動向も見極めつつ、本学会年次集会におけるヒト対象研究についての倫理審査チェックのあり方について検討を進める。

<栄養科学並びに食糧科学の情報の活用推進と普及事業（公2）>

1) 出版事業の推進

- (1) 日本栄養・食糧学会誌の刊行
第 78 巻 2 号～6 号、第 79 巻 1 号を定期的に刊行する。
- (2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) の刊行
日本ビタミン学会との共同編集で、Vol. 71-No. 2～No. 6、Vol. 72-No. 1 を定期的に Web 公開する。各国の関連学会、特に FANS との連携を強化しつつ、英文誌としてさらなる国際化を図る。

2) 広報事業の推進

- (1) ホームページの告知・掲載記事に関し、确实、迅速な更新の実施
- (2) 会員向けメールマガジン「栄食ニュース」の充実と定期発信
- (3) 関連学術団体、関連機関との連携及び依頼記事の広報推進
- (4) 第 79 回大会記者会見の実施

III 総会、理事会等の開催（予定）

(1) 定時社員総会		令和 7 年	5 月	23 日	(金)
(2) 理事会	第 1 回	令和 7 年	4 月	26 日	(土)
	第 2 回	令和 7 年	5 月	22 日	(木)
	第 3 回	令和 7 年	7 月	26 日	(土)
	第 4 回	令和 7 年	10 月	18 日	(土)
	第 5 回	令和 8 年	1 月	24 日	(土)
	第 6 回	令和 8 年	3 月	21 日	(土)
(3) 業務執行理事打合せ	第 1 回	令和 7 年	7 月	12 日	(土)
	第 2 回	令和 7 年	10 月	4 日	(土)
	第 3 回	令和 8 年	1 月	10 日	(土)
	第 4 回	令和 8 年	3 月	21 日	(土)
(4) 名誉会員・終身会員推薦委員会		令和 8 年	1 月	10 日	(土)
(5) 名誉会員・顧問懇談会		第 79 回大会中に開催予定			
(6) 各支部の参与会		支部大会にて			

IV 委員会活動

- (1) 常置委員会
 - ①各種授賞等選考委員会（規程により委員は非公開）
 - ②学会活動強化委員会 (委員長 白川 仁)
 - ③倫理審査委員会 (委員長 曾根 博仁)
 - ④国際交流委員会 (委員長 菅原 達也)
 - ⑤学会誌編集委員会 (委員長 上西 一弘)
 - ⑥広報委員会 (委員長 大森 玲子)
 - ⑦用語委員会 (委員長 上原万里子)
 - ⑧将来構想検討委員会 (委員長 芦田 均)
 - ⑨健康・食品保健表示検討委員会 (委員長 石見 佳子)
- (2) 非常置委員会
 - ①宇宙食健康認定士・宇宙食健康指導士認定委員会 (委員長 二川 健)
- (3) 定款第 35 条 2. による委員会
 - ①中央選挙管理委員会 (委員長 片倉 喜範)

- ②利益相反 (C01) 委員会
- ③ダイバーシティ推進委員会

(委員長 曾根 博仁)
(委員長 熊谷日登美)

- (4) 日本ビタミン学会との合同委員会
JNSV 編集委員会

(委員長 佐藤 匡央)

V その他活動

1) 日本栄養学学術連合関係

令和7年からの2年間も本学会が世話人を務めることとなっており、円滑な運営に努める。
東京栄養サミット2021のコミットメントの実行をさらに進めるとともに、連合全体の取りまとめも引き続き行う。
新たに形成される学会連合連絡会に参加して、今後連絡会の活動にも協力していく。

2) 日本医学会分科会関係

日本医学会連合の領域横断的連携活動事業 (TEAM 事業) として、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が代表機関である「いつまでもおいしく食べるための多学会連携による嚥下障害対策の普及活動」、日本糖尿病学会が代表機関である「薬剤の適正使用と健康に対する理解促進のための啓発活動」日本動脈硬化学会が代表機関である「脳心血管病予防に関するリスク管理チャートの改訂と発行後の周知普及」に協力学会として引き続き取り組み、これらのプロジェクト活動を通じて、研究・開発・学術活動の更なるレベルアップを図りたい。第79回年次大会においては、「栄養疫学の可能性と展開～ライフコースを通じた健康への貢献」をテーマに、医学系学会との合同シンポジウム「日本医学会連合加盟学会連携フォーラム」が開催される予定である。

3) 宇宙食健康認定士・宇宙食健康指導士認定委員会 (旧宇宙食健康認定制度検討委員会)

令和7年5月 内閣府に「宇宙食健康認定制度」の承認のための変更届を提出予定。
令和7年5月 総会により上記認定制度の承認
第5回宇宙食健康認定制度検討委員会を開催
「宇宙食健康認定制度」キックオフシンポジウムを年次大会中に開催する
宇宙食健康認定士の募集開始
令和7年12月頃 第1回宇宙食健康認定士・宇宙食健康指導士認定委員会を開催し、令和7年の認定者を決定予定。

4) 利益相反 (C01) 委員会

例年通り、規定上必要な各種役員等に対し、利益相反申告を行っていただき、その結果について審査を実施する。

5) ダイバーシティ推進委員会

第79回日本栄養・食糧学会大会において、ダイバーシティ推進委員会主催シンポジウム開催

「自然科学系分野のジェンダーダイバーシティの現状と課題を知る」

日時：5月24日 (土) 13:10~15:10

会場：名古屋大学東山キャンパス ES ホール

「日本栄養・食糧学会の男女共同参画の現状」

長岡 利 (岐阜大学)

「男女共同参画学協会連絡会の活動紹介」

熊谷 日登美 (日本大学)

「20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷」

志牟田 美佐 (東京慈恵会医科大学)

「ジェンダード・イノベーション～性差や交差性を考慮した研究・開発を目指して～」

佐々木 成江 (東北大学)

「無意識のバイアスを認識し、その影響を知る—科学技術分野でのダイバーシティを実現するために—」

裏出 令子 (京都大学)